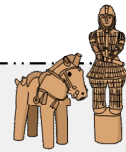




静岡市立清水浜田小学校 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター
令和5年4月27日(木)

「子どもたちにとってわかりやすく、
実際に使う・触ることで実感が得られました。」

静岡市立清水浜田小学校6年部の佐口先生が、総合的な学習の時間の中の歴史体験で、社会科の縄文時代、弥生時代の学習と繋げて、より理解を深めるとともに、地域に存在する遺跡の話を書くことで、歴史を身近に感じてほしいという目的で、6年生25人が発掘調査と周辺遺跡の話、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つの体験を行いました。

発掘調査と 周辺遺跡の話



埋蔵文化センターの主な仕事は、発掘調査であるということ、発掘調査の仕方などを話しました。また、発掘後の整理作業や保存処理を行うことも伝えました。次に、浜田小学校の周辺にある遺跡の話をしました。近くに遺跡があることを知って驚いていました。



「いつも遊んでいる所が遺跡だった。
土器を探してみようかな」

石器の試し切り体験

金属がない時代に穴を掘ったり、木を切り倒したりするために打製石器や磨製石器があることを知り、本物を見て驚嘆の声が上がりました。その後、獲物を捕るための黒曜石を見て、実際に切れるのか試しました。野菜や紙が切れてビックリ！



「よく切れてびっくりした。」

土器の分類体験



発掘された土器片を3つに分けてみました。完形土器と比べながら、分ける理由をいろいろ考えながら縄文土器、弥生土器、須恵器を分類できました。



「2つ間違えたけど、よくさわってたしかめたから、よくできた。」

火起こし体験

もみきり法、弓きり法、舞きり法などの火起こしの仕方を説明し、舞きり法でデモンストレーションをしました。子どもたちも、弾み車を上手に回し火種を作り火を起すことができ、うれしそうでした。



「2人で力を合わせて火をつけることができ良かった。」

「3回も火をつけられてうれしかった。」

先生の感想

「子どもたちにとってわかりやすく、実際に使う・さわることによって実感が得られました。また、子どもたちがとても意欲的に楽しそうに活動していました。解説も急ぎすぎず間延びもせず、子どもたちに十分活動時間を取ってくださり、お話もとてもわかりやすかったと思います。」

